



淀川区まちづくりセンターのスタッフが地域を訪問し、興味を持ったスポットや取り組みを紹介するシリーズ。4回目は、加島地域です。



①毛ス綸大橋

この橋、なんて読むかわかりますか? 答えは「モスリン大橋」。モスリンとは着物に用いられた毛織物の名前です。加島4丁目と尼崎をつなぐこの橋は、日本で初めてモスリン生産を始めた毛ス綸紡織株式会社がモスリンを運ぶために建設しました。モスリンを運ぶ車が数多く往来していたことから、毛ス綸大橋と名付けられたそうです。



NHK連続テレビ小説「あさが来た」の加野屋は加島屋がモデルになっています。その加島屋の分家にあたる「加島屋善七」の名前が狛犬の台石に刻まれています。

③香具波志神社

お話をお伺いした宮司さんによると、香具波志神社は平安時代に鎮座した稲荷の古社なのだそうです。また、加島の地は、神社の北側を通る中国街道の渡し場と、神崎川と猪名川が合流することから船が入り出る港があり、交通の要衝として発展しました。今も昔もこの地に関わる多くの人々から、崇敬を集めてきた由緒ある神社だと感じました。



②美津島中学校の掲示板

美津島中学校の正門の両脇にある掲示板には、「美中だより」が貼られています。中学校での出来事が分かりやすく記載されていて、今回は卒業式についての話題でした。「中学校の様子がわかりやすく書いてあっておもしろい」と地域の方からも好評で、中学校を身近に感じる情報発信が行われています。



淀川区まちづくりセンター Facebook 淀川区まちセン FB 検索 地域情報発信中!!



それいけ、まさふみ!

淀川区長 榊 正文

横串、「チーム淀川」を組むこと。

5月には児童福祉月間ということで、巻頭特集には主任児童委員の奥さんに登場いただきました。淀川区は「子育て世帯がぜひ住みたい!と思うまち」これを一番にめざしています。日本の将来を支える人々をつくるまちが、最も価値あるまちだと思うからです。

子育てするなら、教育の充実している淀川区、子育て支援が手厚い淀川区、おじいちゃん、おばあちゃんのいる淀川区が一番!このように選んでもらえるよう、役所目線ではなく、利用者視点に立った住民サービスを充実させていきます。今年度、政令指定都市初の取り組みである【淀川区訪問型病児保育】をさらにパワーアップしました。詳しくは3Pをご覧ください。

4年前の市政改革以前は、区長は本庁でいうところの部長級で、区民の声を本庁の各局に「伝える」のが仕事でした。それが改革により、区長はシティ・マネージャーとして区内各局事業を「指揮」することが可能になりました。従来の縦割り行政が解消され、随分と組織の風通しも良くなり、子ども達や区民・市民の立場に寄り添って、スピーディに対策を打てるようになりました。

民間から来て再認識したのですが、行政は職務分担と権限で動きます。個々の政策より仕組みづくりは軽視されがちですが、行政を有効に動かすには、仕組みを改革することが重要です。子育て世帯が住みたいと思うまちをつくる。縦割りではなく、主任児童委員や民生委員さんをはじめとする市民の皆さまのご協力を横串に、「チーム淀川」として強力で課題解決に取り組んでいきます。



▲「区役所前の歩道にごみがいっぱい。すぐ掃除しよう!」(榊)フェイスブックで、クワの100イネGET!!

平成28年熊本地震でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。大阪市として、被災地の支援と復興のため全力を挙げて取り組みます。

16 被災地支援に関する最新状況は、区HP、SNS等にて随時お伝えしてまいります。

淀川区長 榊 正文